

ホケノ山古墳 (3世紀中頃)

～前方後円墳定型化の過程を知るうえで
貴重な古墳（纏向型前方後円墳）～

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 「鳥の目」で
5. アクセス



初版：2025.11.13

三輪山



1. おすすめポイント

★前方後円墳が定型化する過程を示すとされる
“纏向型前方後円墳”の中で全容がわかる貴重な例

駐車場には充実した説明板もあり、見ごたえ十分

★定型化した初めての前方後円墳とされる箸墓古墳の
すぐ近くです。是非一緒に見学されては？

2. 説明

駐車場にある説明板▶

2-1



▶説明板の左側部拡大

史跡 纏向古墳群 ホケノ山古墳

ホケノ山古墳は、後の定型化した前方後円墳の成立につながるいくつかの要素を内包した初現的な古墳であり、纏向遺跡に所在するそれら「^{まきむく}纏向型前方後円墳」と呼ばれる古墳の中では唯一その全体像が発掘調査により判明していることから、古墳の出現過程を考える上で貴重な例となっています。

全長は約 80m、後円部径約 55m、前方部長約 25m であり、埴輪はもたず、二段以上の段築と葺石も確認されています。

後円部の中央からは「^{もつかく}石囲い木槨」と呼ばれる木材でつくられた槨の周囲に河原石を積み上げて石囲いを造るという二重構造を持った埋葬施設が確認され、中には舟形木棺が置かれていたと推測されています。

副葬品には、^{がもんたいどうこうしきしんじゅうきょう}画文帯同向式神獸鏡の完形になるものと破片が 1 面ずつと、破片化した同一個体の^{ないこうがもんきょう}内行花文鏡が複数片、^{そかんとうたち}素環頭太刀一口を含む鉄製刀剣類、鉄製農工具、多量の銅鏃・鉄鏃などがあり、他にも出土状況から石囲い木槨の蓋上にあつたと推測される加飾二重口縁壺や小型丸底鉢が確認されました。

埋葬施設の構造やこれらの副葬品などから、古墳の築造の時期は 3 世紀中頃と考えられています。

また石囲い木槨の西側からは、墳丘を再利用し築かれた 6 世紀末頃の横穴式石室が検出されました。



画文帯同向式神獸鏡



銅鏃



加飾二重口縁壺

写真提供：奈良県立橿原考古学研究所
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

2-2

▼ 駐車場にある説明板（前頁）の右部拡大



2-3

3. 現地写真

2020.7.8

墳丘上から西南西を見る▶

線路を挟んで箸墓古墳は
すぐ近くです。

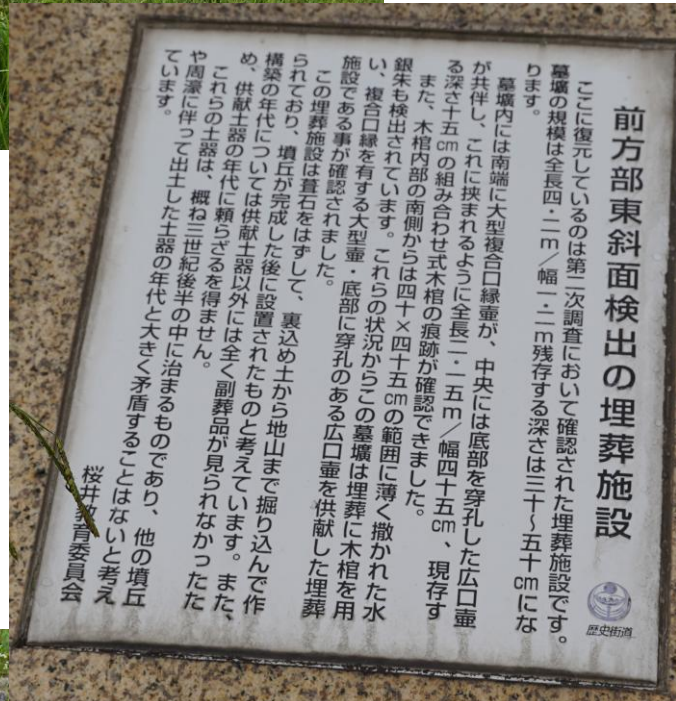
3-1



前方部東斜面から見つかった埋葬施設（復元）



3-2



3-3



3-4

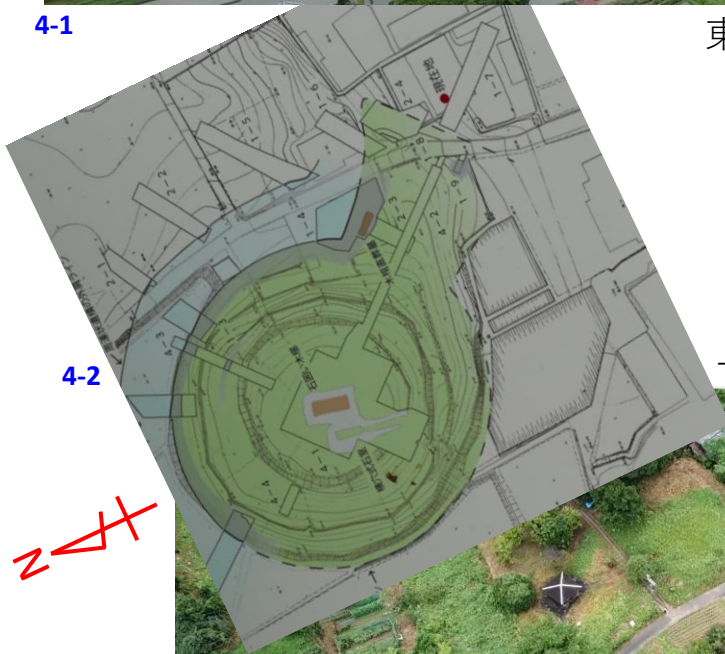
4. 「鳥の目」で

2020.7.8



4-1

東南東方向を見る 背後は三輪山



4-2

上空から見る（説明板との見比べ用）



4-3

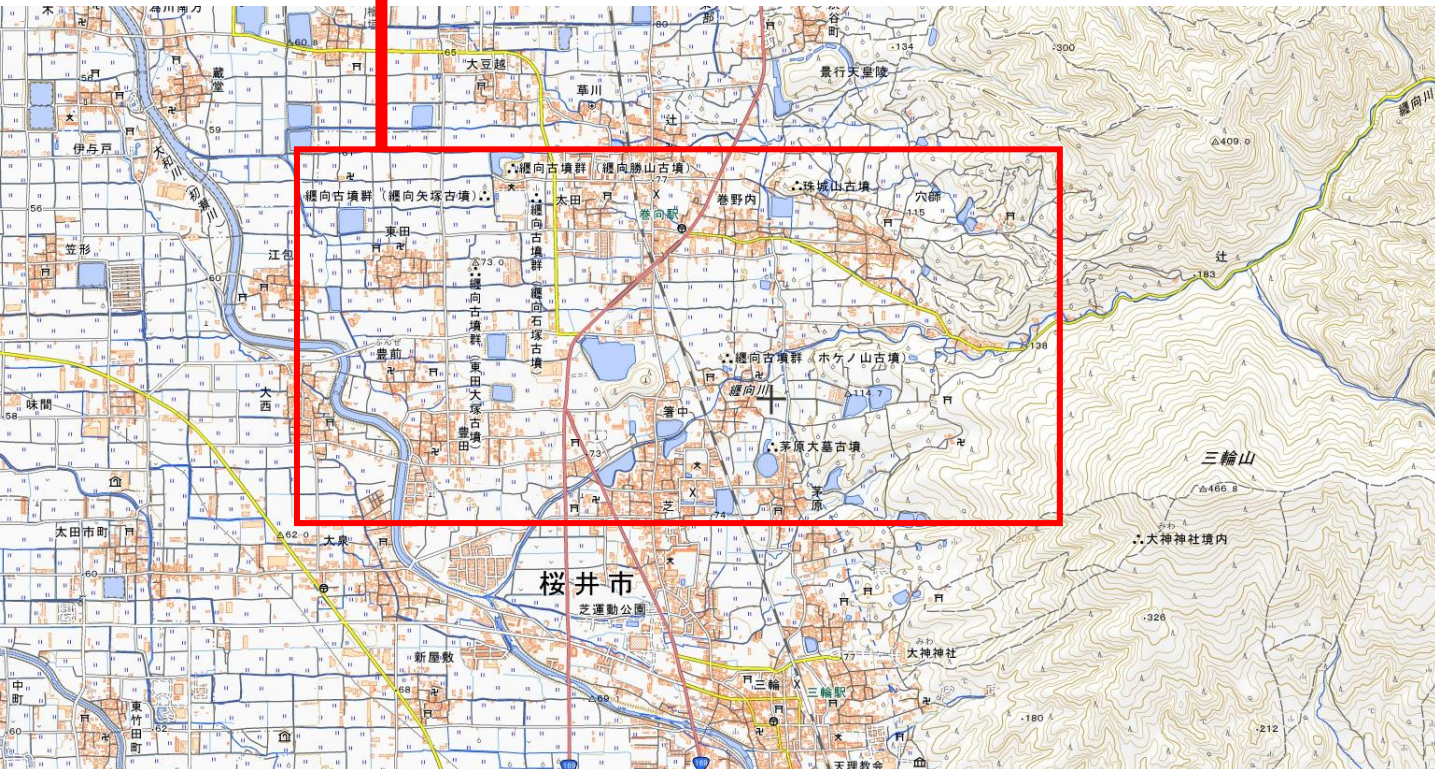
JR纏向駅



箸墓古墳

JR纏向駅から徒歩**15分**、また当古墳から
箸墓古墳まで徒歩**10分**くらいです
ホケノ山古墳には駐車場もあります

桜井市



5-2